

○ 売れ残りじゃないですよ、多めに作ったんですよ、ほんとに

当園が一年でもっとも忙しくなる大晦日、なんとか昨年も無事に乗り越えることができました。おせち料理も盛り込んだ年越しオードブル、かつては既製品のお世話になっていたこともありました。近年はできる限り自分の所で作ろうと黒豆や昆布巻などに加え、昨年からはきんとんも自前で作っています。近年はサツマイモも町内で作っているということで、黒豆、ゴボウになますの大根、ニンジン、マリネの玉ねぎなど、ほとんどの野菜を町内産でまかなえるとは、恵まれたところに住んでいるなと思います。あ、肝心のニジマスですか？ひと月ほど前に上川の方から運んできた魚ですが、...ま、しばらくうちの池にいましたので、住民登録してあげてください。



いくらか多めに作りまして、余った分を別にして販売しています。きんとん、なますは在庫限り！

○ 選ばれし者たちが、秘密の小部屋で春を待っています



偶然立ち寄ったコンビニでレジの人に「サボテンの里親みつかっていますか？」と訊かれたときは驚きました。

11月の通信でお知らせした「サボテンの里親募集」には、思いのほか大きな反響をいただき、100株近い大小サボテンがもらわれていきました。ストーブを止めたハウスはひっそりと冬を迎えています。その中から将来の有望なサボテンを選び（鉢の大きさに合わせた、という説もあり）冬も決してマイナスにはならない秘密の部屋にて越冬させております。初の試みとなる室内越冬計画、心配は鉢に移したことで水やりの加減がわからなくなってしまうこと。乾燥に強いとはいえ、限度もありますんでね。秘密の小部屋のありかは、店に来たことのある方には想像がつくかもしれません。見つけたときはちらっとのぞいて、そっと閉めておいてください。

○ サンタになったり鬼になったり、忙しいことこのうえない



特に本文と関連はありませんが、我が家のかぶりもの担当、次女の一枚です。

ついこないだクリスマスだったと思えば、間もなく節分。我が家の子どもが通っていた保育園ではシーズン間近になると、送迎に来たお父さんに先生がそっと近寄ってきて「サンタさんやってもらえませんか」「鬼やってもらえませんか」とリクルート活動をするのでした。私もほぼ毎朝保育園に子どもを送っていましたが、なぜか鬼役の声は一度も掛かりませんでした。どう見ても迫力に欠ける鬼になりそうだからでしょうか。さて、節分には豆まきをする家庭も多いかと思います。松久家ではなぜか豆と一緒に「お菓子」をまくのが伝統となっています。部屋を真っ暗にして子どもたちがカゴを持ち、親が「鬼はそと

ー！」の掛け声とともに家の中にお菓子をばらまくという不思議な行事。子どもたちは暗闇の中をお菓子を求めてはい回るといふわけです。自分が子どもの頃はそれが普通とっていましたので、幼稚園や小学校で「正しい」豆まきを見ると「うちの豆まきの方が楽しいのになー」なんて思っていました。